



大河女優24人の「濡れ場名場面」飛び出す瞬間 プレイバック



袋とし8ページ
河北彩花



アブナイ葉月つばさ
奇跡のLカップ!デビュー撮



本当はエロすぎる 源氏物語



野茂から大谷へ「伝説の継承」



秘蔵グラビア
竹下景子に憧れて

ビートたけし「松本問題」を語る

ポスト松本時代に
生き残るテレビ番組20



向春スペシャル合併号



密着
木梨憲武

みなさんのおかげです

2024年1月29日(月)発行(毎月15日発行)発行 第56巻第5号通巻第2713号創刊49年11日第3刷発行部数2万

2024 Feb. 2.9/16 特別価格560円

三菱UFJ銀行、商事、キリン、ENEOS 重工、東京海上ほか
安定成長を支える「鉄の結束」

三菱グループ高配当の秘密

株価爆騰の牽引役

虚偽記載疑惑

岸田の名ばかり会計責任者直撃!

首相

1月から始まった課税強化をすり抜ける／書類を減らす最終兵器
法定相続情報一覧図／非課税相続の方法20／争族を回避する技術21

税務署公認! ずるい相続

手間と税金を減らし
親族を丸め込む知恵

「すい臓がんドック」ステージ0で発見する最新技術

「治すがん」放置するがん

露木茂さんは「早く手術してよかった」／倉田真由美さん夫は「治療しない決断」

胃がん

すい臓がん

「この波に乗るしかない！」UFJ銀行、商
 事、重工、キリン、ENEOS、東京海上ほか
 安定成長を支える 横と縦の「鉄の結束」

日経平均株価 日経平均株価

36546.95

+583.68

株価爆騰の牽引役

三菱グループ

高配当の秘密

バブル期に記録した日経平均株価3万8915円の最高値の更新が目前に迫っている。その牽引役となっているのが、昭和バブルの荒波を乗り越えた実績を持つ、最強の企業集団・三菱グループである。圧倒的な安定成長と高配当を支える力強さの秘密を探った。

PART1
グループで増配に注力
日経平均を爆上げした
「三菱銘柄」の底力

今年に入り日経平均株価は連日バブル後の最高値更新を続けている。この背景にあるのが「三菱グループの躍進」だと分析するのは、マーケットバンク代表の岡山憲史氏。「とりわけグループの『御三家』といわれる三菱UFJフィナンシャル・グループ（以下、MUFJ）、三菱商事、三菱重工業の株価上昇が著しい。MUFJは20年3月の300円台から1300円台へと3倍以上、商事も2600円台と過去

3年で3倍に。重工に至っては9500円附近と過去3年で4倍以上に上昇しています」
 約4000の関連会社と87万人の従業員を抱える三菱グループは、総売上高が69・3兆円にのぼるといふ（『週刊東洋経済』20年3月21日号を参考）
 三菱関連企業の株価が上昇することで、日経平均を大きく押し上げているというのだ。
 株高を裏付けるように各企業の業績も好調だ。三菱重工はガスタービン

で念願の世界シェアトップとなり、24年3月期は10年ぶりに過去最高益を更新する見通しとなった。その他のグループ企業も好調で、株価上昇トレンドを描く企業が多い。
 石油最大手ENEOSホールディングスもそのひとつ。24年3月期の営業利益は前期比49・3％増、純利益は同66・9％増と大幅な増益を見込む。「非鉄金属大手の三菱マテリアルは、電子機器類の廃基板からレアメタルを取り出してリサイクルする取り組みで、24年3月期の経常利益は前期比2・2倍の見通し。三菱製紙は、値上げが奏功した他、工場の省エネルギー化など経営改善が進み、24年3月期の営業利益は前期比6・2倍にまで膨らむ見込みです」（同前）

丸の内の大家」といわれる三菱地所は、「コロナ禍で落ち込んだ商業施設やホテルの収益が本格回復、24年3月期の純利益は3期連続の最高益更新を見込む。
 三菱電機は24年3月期に6年ぶりの最高益更新の見込みとなり、三菱製鋼はハイテク製品向け精密ばねの販売拡大で、24年3月期の営業利益が44・2％増を予想するなど好決算のオンパレードとなっている。
 好調な業績を背景に株主還元を強化する企業も多く、高配当銘柄も相次ぐ。配当利回りが4％近い三菱製鋼やAGCをはじめ、ENEOSや三菱マテリアル、三菱ケミカルは3％台半ば、キリンホールディングスや東京

史上最高値
 バブル崩壊を乗り越えた最強集団が
 日経平均3万8915円超えに挑む

日本経済を底上げする

企業名(市場証券コード・業界)	株価	売上高	注目ポイント
三菱化工機 (P・6331・機械)	3505円	445億円	船舶用油清浄機や水素ステーション向け水素製造装置などを得意とする。「今後も需要が高い分野」(岡山氏)。24年3月期連結業績は売上高が前期比8.8%増、営業利益が同26.9%増を予想
三菱電機 (P・6503・電気機器)	2205円	5兆0036億円	宇宙航空研究開発機構(JAXA)の月探査機SLIMのシステム開発や製造を担当。「パワー半導体など、世界的に重要性が高まる分野でも競争力を見せる」(真壁氏)
三菱重工業 (P・7011・機械)	9490円	4兆2027億円	航空から発電、宇宙システムまで担う重厚長大の雄。「脱炭素の流れを受け、高効率のタービンなどガス火力発電関連製品の需要増加が予想される」(真壁氏)
三菱食品 (S・7451・卸売業)	5020円	1兆9967億円	加工食品卸トップの菱食が母体企業の一つ。「トラックの余剰スペースのシェアリングサービスを立ち上げるなど、業種の垣根を越えた取り組みを強化。生産性向上に期待」(真壁氏)
三菱商事 (P・8058・卸売業)	2575円	21兆5719億円	総合商社大手。「資源、食料、脱炭素やデジタル化など、世界経済のあらゆる分野で収益機会を発掘する力が魅力」(真壁氏)。学生からの就職人気ランキングでも上位常連
三菱UFJフィナンシャルグループ (P・8306・銀行業)	1315円	9兆2810億円	日本最大の金融グループ。「銀行、証券、資金運用やフィンテックまで幅広くカバーし、収益力分野が拡大している」(真壁氏)
東京海上ホールディングス (P・8766・保険業)	3862円	6兆6486億円	「欧米を中心に損害保険・生命保険会社を相次いで買収するなど海外展開に積極的」(岡山氏)。24年3月期純利益予想を当初計画から450億円上積みし5750億円へ
三菱地所 (P・8802・不動産業)	2136円	1兆3778億円	国内総合デベロッパー大手。「高付加価値の不動産開発に加え、今後10年で物流施設の開発に5000億円を投じる」(真壁氏)
日本郵船 (P・9101・海運業)	4983円	2兆6160億円	三菱グループの海運会社。「デジタル化に伴う物流の重要性向上に加え、中東情勢の緊迫化によるタンカー運賃高騰で業績拡大の期待が高まる」(真壁氏)
三菱倉庫 (P・9301・倉庫・運輸)	4638円	3005億円	「2024年問題への対応に向け、物流のデジタル化を支えるスタートアップ企業に精力的に出資している」(真壁氏)。医薬品やヘルスケア物流を営む米国企業を買収

ているのは間違いないですが、それ以上に絶えず新しい挑戦をしていることが大きい。

三菱商事は5000億円を投じて再生エネルギーに強いオランダの電力大手を買収するなど、脱炭素化へのチャレンジを行なっている。これは国策に沿った大きな取り組みで、投資家からも注目を集めました。

経済ジャーナリストの福田俊之氏も、「地球温暖化防止のためのカーボンニュートラルなど、グループ全体で時代の変化に対応するための質の高い経営戦略を描き、収益力の向上を図っていることが要因だろう」と分析する。

三菱グループの株価好調を下支えしているのがMUFGだというのは、月刊誌『経済界』編集局長の関慎夫氏。

「三菱グループは企業間取引から一般消費者向けまで、川上から川下まで

三菱主要企業20銘柄

企業名(市場証券コード・業界)	株価	売上高	注目ポイント
ピーエス三菱 (P・1871・建設業)	924円	1093億円	橋梁建設を中心とした土木、耐震性に優れた構造物が得意。「どちらも需要増が期待できる」(岡山氏)。24年3月期連結業績は売上高が前期比7%増、営業利益が同1.5%増を見込む
キリンホールディングス (P・2503・食料品)	2123円	1兆9894億円	「ビールメーカーから、発酵技術を活かした免疫力向上食品など、健康関連企業へビジネスモデルの変革推進中」(多摩大学特別招聘教授・真壁昭夫氏)
三菱総合研究所 (P・3636・情報・通信業)	4885円	1221億円	「シンクタンク・コンサルティングサービスが官公庁向けで堅調」(岡山氏)。24年9月期連結業績は純利益1.8%増を見込む
三菱製紙 (P・3864・パルプ・紙)	561円	2095億円	「紙製品の値上げ効果や工場の省エネルギー化、歩留まりの改善を進めて採算が改善した」(岡山氏)。24年3月期は営業利益が前期比6.2倍となる見通し
三菱ガス化学 (P・4182・化学)	2436円	7812億円	デンマーク企業と共同で、食品廃棄物などからつくるメタノールの国内初の供給拠点を整備。「海運分野の次世代燃料の本命の一つとして注目」(真壁氏)
三菱ケミカルグループ (P・4188・化学)	907円	4兆6345億円	中国の景気減速に直面しつつ、構造改革に取り組む。「資産売却を進めつつ、半導体やバッテリー材料など成長の期待が高い分野に集中する」(真壁氏)
ENEOSホールディングス (P・5020・石油・石炭)	605円	15兆0165億円	「製鉄や発電、運輸など様々な分野の脱炭素に欠かせない水素の調達網を拡充したことで、今後の飛躍に期待」(真壁氏)。経営面では、4月に新体制発足
AGC (P・5201・ガラス・土石)	5398円	2兆0358億円	EV向けの全固体電池の普及を見すえ、基幹部材となる「電解質」の量産を目指す。「製造時間が従来の10分の1になる新技術で参入し、2027年にも事業化を計画している」(真壁氏)
三菱製鋼 (P・5632・鉄鋼)	1561円	1705億円	「ハイテク製品向け精密ばねの販売が拡大した」(岡山氏)。加工組み立てにも進出した。24年3月期連結業績は営業利益が前期比44.2%増を見込む
三菱マテリアル (P・5711・非鉄金属)	2634円	1兆6259億円	電子機器類の廃基板からレアメタルを取り出しリサイクルする取り組みに注力。「24年3月期連結業績は経常利益が前期比2.2倍となる見通し」(岡山氏)

Pは東証プライム市場、Sはスタンダード。売上高は23年3月期など前期の決算報告書に基づき、株価は1月23日終値を記した。銘柄は岡山氏、真壁氏が監修。

海上ホールディングスなども3%以上だ。

「昨今、三菱はグループ全体で株主への増配を掲げており、MUFGは「配当金の安定的・持続的な増加を基本方針とし、配当性向40%への累進的な引き上げを目指す」とする株主還元方針を提示。前年度以上の配当を続ける「累進配当」を業界に先駆けて導入した三菱商事は「中期経営戦略2024」においても累進配当の継続を宣言し、昨年11月には8期連続の増配を発表して株式市場で話題を呼んだ。

挑戦者であること

三菱グループの株価上昇について、経済ジャーナリストの河野圭祐氏が語る。

「グループ全体として伝統的に輸出主体の重厚長大の要素が強い企業が多く、円安が追い風になっ